

幻想の終焉：伊藤穰一と エプスタイン文書が暴く 日本のシステム不全

- 2026年3月、デジタル庁「デジタル社会構想会議」からの退任
- 世界で追放された人物が、なぜ日本の中枢に座り続けたのか





単なるスキャンダルではない。国家レベルの「時間泥棒」である。

- **奪われた国民の血税**
- **停滞するデジタルインフラ構築**
- **無意味な擁護論争に消費される社会の知的リソース**



300万ページの衝撃：米国司法省「エプスタイン文書」の全貌

- マスコミの情報統制を破壊した一次資料
- 2019年のMIT辞任ですでに予測可能だった「不都合な真実」

事実1：約2億円の「匿名化」されたブラックボックス資金

2億円



- エプスタインからMITへ約85万ドル、個人ファンドへ120万ドルの流入
- 性犯罪有罪判決（2008年）後の資金授受
- 大学のコンプライアンスを回避するための意図的な「匿名扱い」

事実2: プライベートジェットと「エプスタイン島」への訪問記録

- 少女虐待の現場とされる島への複数回の訪問
- 2014年: リード・ホフマン氏 (LinkedIn創業者) らとの同席記録
- 「犯罪を知らなかった」では済まされない異常なネットワーク環境



事実3：異常な親密さを示す 「8,400通」の通信履歴

- トップ500人のメール総数の約1.9%を占める異常な頻度
- 不気味な暗号メール：
「Japan/dogs」 「Lot of sex」
- ハッカーを通じた不透明な情報収集ネットワークへの関与
疑惑



評判ロンドンダリングの「結節点(ノード)」

- 「伊藤穰一は、私らの一員だよ」 — エプスタインからアラブ富豪への紹介
- 科学界とシリコンバレーの超大物を繋ぐコネクターとしての役割
- 世界的な大企業（東芝、ソニー等）を巻き込むビジネスネットワーク悪用の危惧



世界の「追放」と日本の「大歓迎」 という異常なコントラスト

BANNED

- [GLOBAL] ハッカー会議DEF CONからの異例の追放 (2026年2月)
- [GLOBAL] カーネギーメロン大学によるプロジェクト参加拒否



- [JAPAN] 政府有識者会議、大学学長、大手企業役員への連続起用



「違法行為はない」という詭弁と道義的責任の完全な欠如

- 法律の抜け穴で起訴を免れたこと ≠ 公職に就く適格性
- 国家の構想を任せる人物に求められるのは、一般市民を遥かに超える倫理基準
- 違法でなければ何をしても許されるというダブルスタンダードの崩壊

失墜した信頼と「役職のデパート」状態



• 千葉工業大学 学長 兼 変革センター長

• 株式会社デジタルガレージ
Chief Architect

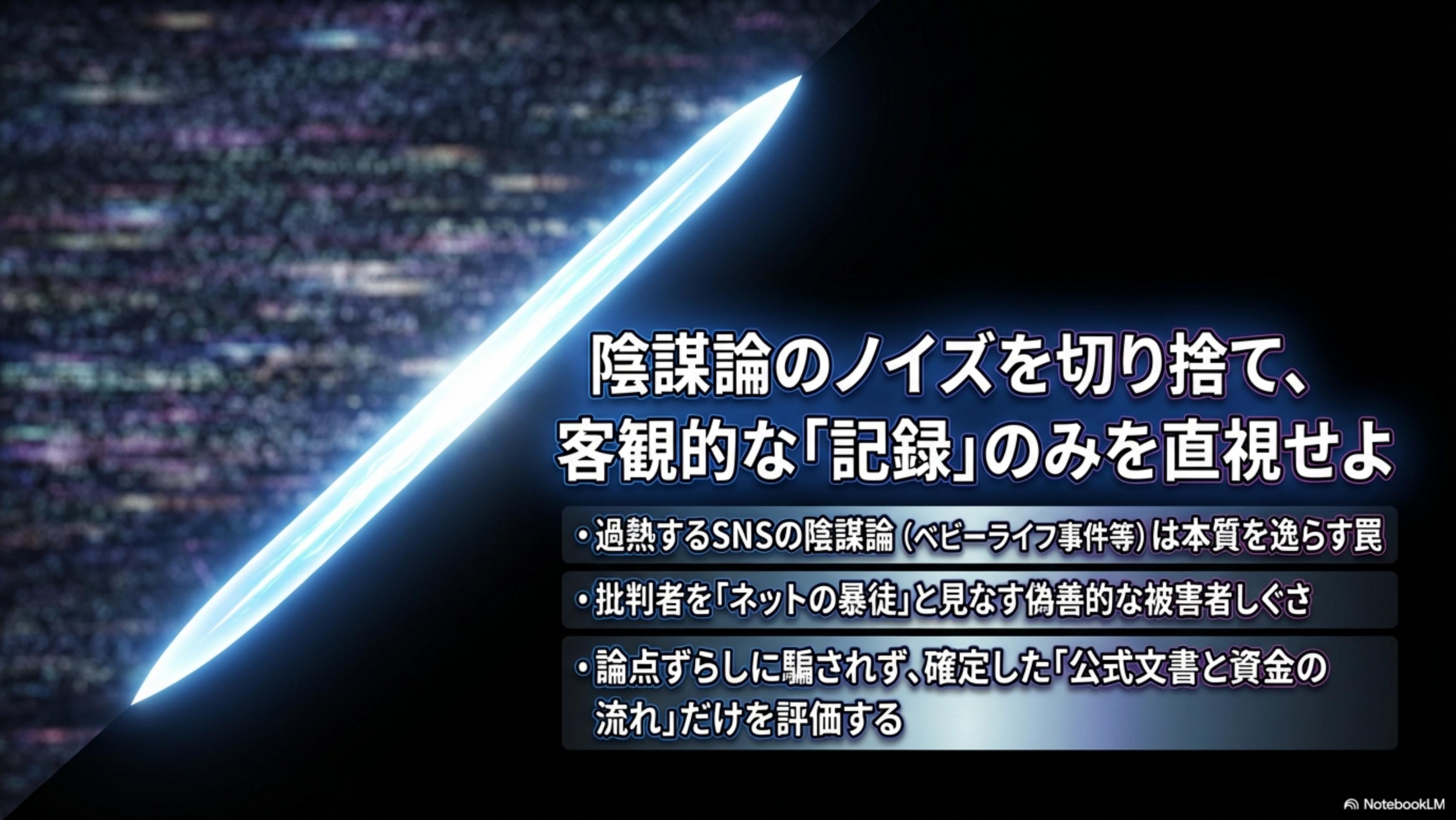
• デジタル庁「デジタル社会構想会議」
委員（※退任予定）

• 内閣府、経済産業省、藤田医科大学
など多数のアドバイザー・役職

権威主義に平伏すデジタル庁の 「致命的な身体検査ミス」



- 2019年のMIT辞任という明白なレッドフラグの意図的な黙殺
- 「権威ある名前」に無批判に依存した政府の機能不全
- 泥縄式の退任劇でストップしたデジタル社会構想の議論



陰謀論のノイズを切り捨て、 客観的な「記録」のみを直視せよ

- 過熱するSNSの陰謀論 (ペピーライフ事件等) は本質を逸らす罠
- 批判者を「ネットの暴徒」と見なす偽善的な被害者しぐさ
- 論点ずらしに騙されず、確定した「公式文書と資金の流れ」だけを評価する

真の被害者は私たち：失われた「3つの国家リソース」

[1] 泥縄式の対応と国会審議によって空費された「国民の税金」

[2] 不毛な擁護論争に奪われた政策推進のための「貴重な時間」

[3] コンプライアンスを形骸化させたことによる「国家への信頼」



防衛策：不毛な論争から 撤退し、権威を疑え

- 結論の出ない感情的なSNS議論に自分の時間を投資しない
- 権威主義に依存したメディアの煽り報道を冷笑的な視点でスルーする
- 政府に対し、人物の任命基準の抜本的な見直しと透明性を要求する





**私たちは、この生産性ゼロの茶番
をいつまで許容するのか？**

・搾取の構造を見抜くことこそが、唯一の解決策である。